

アキュラホーム 坪 29.8 万円の太陽光発電搭載・オール電化住宅が好評 中高年の顧客層も拡大

（株）アキュラホーム（本社：埼玉県さいたま市、社長：宮沢俊哉）では9月12日（金）より発売を開始した、3.3㎡当たり（坪単価）29.8万円からとなる太陽光発電搭載のオール電化住宅「陽向家（ひゅうが）」が好評です。これは全国一斉キャンペーン「アキュラネット家づくりプロジェクト Vol.10」の期間限定商品です。

発売日の9月13日（土）から15日（月）までの3連休では、埼玉県内にある弊社モデルハウスへの来場者数が800名を超え、昨年同時期に比べ約40%増となりました。また本商品に対する消費者からの電話による問い合わせは、通常商品の約3倍を記録しました。



「陽向家（ひゅうが）」好評の理由として消費者の環境意識の高まりとともに太陽光発電システムの認知度が上がっていること。さらに、太陽光発電システム搭載住宅は一般住宅に比べて割高になる傾向があるため、本商品の29.8万円という価格が大きなインパクトとなっていたことなどが上げられると思います。

その上、太陽光発電システムにより電気料金を節約できること。手入れが簡単なIHクッキングヒーターや、料金の安い深夜電力を活用してお湯を沸かす省エネ給湯システムエコキュートなどオール電化設備の採用等々。本商品が、生活メリットの高い住宅であると評価されたものと考えています。

今回の展示場来場者の傾向としては、将来の生活設計を含めて単なる価格価値だけでなく、総合的な住宅の価値を見出しているようです。また、住宅性能表示制度で6項目の最高等級を可能にした高性能住宅であることも評価された模様です。

来場者の年齢分布は、20歳代は14.3%、30歳代42.9%、40歳代17.9%、50歳代17.0%、60歳代以上8.1%となりました。30歳代が全体の半数近くを占めていますが、全体としてみると50歳代の後半にも来場者数のピークが認められ、団塊世代と団塊ジュニアという購買行動が活発と言われる昨今の状況を裏付けているようです。さらに60歳代以上の来場が8%以上というのは新しい傾向と分析しています。

アキュラネット事務局に寄せられた、電話による全国の一般消費者からの問い合わせでは、50、60、70歳代の合計が全体の半数を占めました。この中には、大手住宅メーカーの太陽光発電住宅を検討中のユーザーも多数含まれていることがアンケートから判明しています。老後の生活を検討している中高年のユーザーは、将来的な生活コストや、火を使わない安全なオール電化仕様、さらには環境にやさしいという点で注目しているようです。環境と言う点では自分にもできる環境貢献を理由にあげたユーザーもありました。「陽向家（ひゅうが）」の発売により、これまで大手住宅メーカーの太陽光発電搭載住宅に注目していたユーザー層がアキュラネットの活動による高性能住宅にも注目し始めたのではないかと考えられます。

太陽光発電オール電化住宅「陽向家（ひゅうが）」は、弊社が主宰するアキュラネットを通じて、全国の地域工務店・ビルダー175社より300棟の限定販売で、販売期間は11月30日（日）までとなっています。

読者からのお問い合わせ電話番号はTEL：048-631-2337までお願いします。

太陽光発電・オール電化住宅「陽向家（ひゅうが）」について

コンセプト

『家族と地球を見守りながら、いつも太陽を向いている家』を普及価格で。
21世紀を生きる私達には、人と自然とが共生する暮らし方が求められています。その課題に対するひとつの答えが、太陽光発電・オール電化住宅「陽向家（ひゅうが）」です。建てるときはもちろん、住んでからもずっとコストメリットが続くこと。家族が健康で、安心な毎日を過ごせること。そして、暮らしていくことそのものが環境への思いやりにつながる。年間光熱費は今までの約1/4と、抜群の経済性。節約した分で暮らしをもっと豊かに。そこには省エネライフを楽しむという、新しいライフスタイルが生まれます。家族と地球の未来をあたたく見守りながら、いつも太陽を向いている家。すみずみまで、やさしい発想に満ちあふれた住まいです。

太陽光発電システム

屋根上の太陽電池モジュールに太陽の光が当たり、内部の半導体に電子が発生、電子の動きによって電気が作られ、パワーコンディショナーによって家庭で使える電気に変換されます。発電量が多く電力に余裕ができる昼間は、余った電気を電力会社に売ることができます。夜間や雨の日など、十分な発電量が確保できないときには、従来どおり必要分を電力会社から自動的に供給。電気を無駄なく活用することができます。

住宅用太陽光発電導入促進対策費補助金が255,600円、住宅金融公庫の割増融資は200万円まで活用できます。

オール電化システム

オール電化住宅は電気料金の割引制度をかしこく活用することで大きなメリットが生まれます。

給湯器（エコキュート）

エコキュートは大気中の熱を利用してお湯を沸かすヒートポンプ式給湯器です。昼間に比べて料金が割安な夜間電力を活用してお湯を沸かすので経済的です。従来のガス給湯器（LPガス使用）と比較するとランニングコストは約1/12となります。高圧力型なので2階への給湯もでき、いつでもたっぷりお湯が使えます。

割増融資はマルチエアコンなどと組み合わせることで50万円が可能となります。

試算条件：JRA（日本冷凍空調工業会）ヒートポンプ給湯器の消費電力量の計算容量による

IHクッキングヒーター

火を使わずに直接加熱する、省エネ性、安全性に優れたIHクッキングヒーターは、熱効率が90%と高く、強火の料理にも対応できます。立ち消えの心配もなく油煙の飛散も少ないので、室内が汚れにくくお手入れが簡単です。

環境にやさしい省エネルギー性能

近年、CO₂（二酸化炭素）による地球温暖化などの環境問題が注目。「地球温暖化防止京都会議」において炭酸CO₂（二酸化炭素）削減の指針が示され、環境負荷の低い新エネルギーの利用促進が叫ばれています。これを受けてアキュラネットでは「人と自然に優しい住宅作り」を目指して次世代を見据えた新型住宅の研究を続けてきました。そこで「太陽光発電システム」の搭載によって省エネルギー化を推進し、さらに「オール電化仕様」を採用することによって、光熱費とCO₂（二酸化炭素）排出量を大幅に削減しました。

家計にもやさしい

「陽向家（ひゅうが）」は環境だけでなく家計にも優しい“創エネ・省エネ住宅”です。電気、LPガス使用で年間の光熱費が最大で従来の1/4まで節約が可能。これは30年間で626万円もお得な計算になります。

年間の給湯負荷は、東京地区での4人家族を想定したIBECモード（4,117.8Mcal：4,788.1kW・h/年）で計算。一般家庭の冷房費、照明その他のエネルギー消費量は（株）住環境計画研究所「家庭用エネルギー統計年報」1998年度によります。核燃料のコストは「灯油・LPG価格の経済産業省消費者モニター調査」（平成14年1月）「原材料調整制度に基づくガス料金の変更について」（資源エネルギー庁・平成14年4月）「省エネルギーハンドブック」によります。気象条件は（財）日本気象協会（平成10年3月のデータ）によります。ソーラー発電は2.84kWの全国16地点における年間予測発電量の平均値によります。

「新世代ハウス」

アキュラネットが供給する住宅は「新世代ハウス」（新世代木造住宅供給システムによる）であり、性能面では品確法に対応、住宅性能表示制度において、構造の（3項目）劣化の軽減、維持管理、空気環境の6項目で最高ランクを満たしており、さらに保証面においても施工前の全棟地盤調査の実施、施工中での第三者機関による工事検査、さらには引渡し後の定期的アフターメンテナンスや財団法人住宅保証機構などによる10年性能保証などが盛り込まれています。